

岳滅鬼山～古処山縦走（ゴールならず馬見山まで）

【報告者】S田

【日時】平成30年10月27～28日

【天候】晴/曇

【参加者】S田、（会員外）

《コースタイム》

10月27日（土）17:00 しゃくなげ荘上部－19:11 岳滅鬼峠（西方600m地点）－19:26 岳滅鬼山頂－20:19 深倉越－21:13 湯谷越－21:30 野営地点

10月28日（日）5:00 起床－6:14 出発－6:30 釈迦ヶ岳－8:05 大日ヶ岳－9:16 林道－（ルート逸脱）－陣尾 12:35－13:45 行者堂登山口－14:34 小石原民芸村跡－15:55 栗河内別れ－17:26 馬見山頂－18:46 馬見山登山口

《 報 告 》

現状の体力で長時間の行動が可能かどうかを試すため、今回の山行を計画した。結果的には12時間歩行は達成できた。また多くの課題も発見できた。馬見山で縦走を断念した理由としては、体力・時間が限界だった点、馬見山からの下山ルートは記憶に新しかった点から決断した。

10/27（土）

家族送迎で英彦山大権現駐車場まで移動。大南林道から上部は過去に正規の尾根上のルートを誤った経験から注意したが、今回も誤った尾根から上がることになり、岳滅鬼峠より岳滅鬼峠方向に600m進んだ地点で稜線上に到達した。^{#1}岳滅鬼山頂、深倉越を経て、21:30 湯谷越先の平坦部（計画より45分遅れ）を本日の野営地としツェルト設営と簡易な夕食を済ませ、22:30 就寝。

10/28（日）

釈迦ヶ岳⇄大日ヶ岳 45分は計画ミスであった。この間一旦200M下って150M登り80分を要する。（計画書比較で50分遅れ）大日ヶ岳頂より、同行者が足首の圧痛を訴え始める。林道－陣尾間は大きな標高差はないものの細かなアップダウンが連続し、露岩帯でもあり緊張を要す。ここで同行者との間隔が開きすぎたため、停止して声を掛けるも返答が聞こえず、心配になり戻ったところ、私が通過したルートと異なる場所を通過していた。周辺をぐるっと回ったような妙な感覚は感じた^{#2}のだが、結果的にはルートを逸脱し林道へ戻ってしまう。（80分 loss）林道で送迎車を待つことを勧めたが、同行者は小石原までは行きたいとの意向だったため、再度陣尾へ向けて出発する。行者堂登山口で同行者と別れ、道の駅小石原経由で14:34 小石原コース登山口。栗河内別れを20分遅れで通過。さらに40分遅れ（小休止後逆方向へ進む判断ミス）で馬

見山頂到着。疲労度、時間からここで縦走を断念し、18:40 馬見山登山口下山。

《今回の山行を経験して》

複数の尾根が派生する地点などにおいて、夜間帯の行動は視野が極端に狭まり、ルートを見落としがちになる事で、何度も痛い目に遭った。初日の45分遅れはルートを逸脱したとはいえ地図上ではショートカットしていることになり、夜間におけるルートファインディングにかけた時間が加わったものと思われる。2日目の50分遅れは計画書作成段階でのミス、80分のロスはルート逸脱によるもの、またその要因は心理的な影響が行動に現れ、咄嗟の判断を誤る未熟さがあることを反省した。小石原からの60分遅れは、それ以前に蓄積された体力の消耗が要因ではあるものの、遅れを補填できる体力がなかったことも事実である。

#1: 暗闇の中、ルート外で稜線を目指すのは危険行為であった。日中ではまだしも、稜線に上がり込みさえすればという気持ちがあり、林道もしくはせめて赤テープを見るまで戻らなかったことが、結果的に時間超過の要因になってしまった。

#2: 当然ながら、ルートを地図やGPSで確認すべきであった。同行者に対して心理的に不安定になっていたことが原因であり、未熟であることが露呈した。さらに、当該地点でどのようにルートを外れたのかを検証する必要がある。

今後の山行にあたって夜間行動を回避するために計画を安易なものにすべきではないと考えるが、夜間帯に行動するルート状況については、より吟味した計画立案が重要と思われる。今回の山行で得られた経験を、今後の山行に生かしていきたい。



図：山の図書館ニュース第45号「峰入りの記録を見る」より